

第1回 練馬区立北町第二保育園運營業務委託事業者選定委員会
会議要点記録

令和2年3月23日（月）午前11時～12時

練馬区役所本庁舎 19F 1902 会議室

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、
こども家庭部長、保育課長、事務局（保育計画調整課長）

- 1 選定委員会委員長（こども家庭部長）あいさつ
- 2 委嘱状交付
- 3 選定委員紹介
- 4 事務局より
 - (1) 練馬区立保育園の運營業務委託について
委託の目的、対象園、スケジュール等について説明
 - (2) 選定委員会について
 - ① 選定委員会設置要綱について説明
選定委員会設置の根拠となる要綱の確認
 - ② 選定方針（案）について説明
運營業務委託事業者の選定にあたっての選定方針の確認
 - ③ 審査基準表（案）について説明
 - (3) 北町第二保育園について
 - ① 保育園の概要について説明
 - ② 募集要項（案）について説明
 - (4) 今後のスケジュールの確認

第2回 練馬区立北町第二保育園運営業務委託事業者選定委員会
会議要点記録

令和2年5月20日(水)書面開催

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、
こども家庭部長、保育課長、事務局(保育計画調整課長)
北町第二保育園園長

- 1 北町第二保育園について
 - (1) パワーポイント資料(園作成資料)
 - (2) 園施設動画DVD
- 2 選定委員からの質問、意見の募集
- 3 今後のスケジュールの確認

第3回 練馬区立北町第二保育園運営業務委託事業者選定委員会
会議要点記録

令和2年6月17日(水)午後5時～5時15分 オンライン開催
令和2年6月19日(金)午前9時30分～9時45分 オンライン開催
出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、
こども家庭部長、保育課長、事務局(保育計画調整課長)

- 1 選定委員会委員長あいさつ
- 2 第2回書面会議の案件の確認
- 3 応募事業者一覧
事務局より応募事業者一覧の説明
- 4 今後のスケジュールの確認

第4回 練馬区立北町第二保育園運営業務委託事業者選定委員会
会議要点記録

令和2年7月14日(火)午後6時30分～7時30分

練馬区役所本庁舎19F 1902会議室

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、
こども家庭部長、保育課長、事務局(保育計画調整課長)

- 1 選定委員会委員長あいさつ
- 2 応募事業者一覧
事務局より応募事業者一覧の説明
- 3 経営診断報告
事務局より経営診断報告の説明
経営診断結果により、応募事業者の経営状況について確認
- 4 現地調査部会報告
現地調査部会より、応募事業者が運営する保育園の運営管理、保育内容、
施設管理・環境整備、給食運営、保健業務の各項目について報告
- 5 一次審査(事業者の絞り込み)
今回、8事業者の応募があった。選定方針に基づき一次審査を行うことについて
審議し決定した。
一次審査では、提出書類や経営診断報告、現地調査報告に基づき、各応募事業者
を相対的に比較し、二次審査対象事業者を合議の上、決定した。

上記の状況を踏まえ、4事業者を二次審査の対象とした。
- 6 今後のスケジュールの確認

第5回 練馬区立北町第二保育園運営業務委託事業者選定委員会
会議要点記録

令和2年7月26日（日）午前9時30分～午後3時20分

早宮地域集会所 集会室

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、
こども家庭部長、保育課長、事務局（保育計画調整課長）

1 応募事業者プレゼンテーション

運営業務委託に応募した4事業者によるプレゼンテーションを、それぞれ40分
（事業者のアピール20分・質疑応答20分）行った。

なお、北町第二保育園の保護者2名の傍聴があった。

《保護者からの質問事項に対する回答》

事業者A

質問1 保育園運営で課題と思っていることは何か。その課題に対して、どのよ
うな対応を考えているか。

課題は色々あるが、一番は保育の質の向上である。園長、主任、保育士
への研修を含めた質の確保が課題と考え、昨年、社団法人を立ち上げ、研
修専門の機関をつくった。スタッフ1,800人のうち、保育士が1,400人い
るが、ばらつきがある。そのばらつきをしっかりと認識した上で、100を超
える研修カリキュラムを設けて、その人に合った研修を提供したいと考
えている。座学の研修だけで保育士の質を確保できるとは思っていない。現
場で一緒になって考える取組や、今年4月からは、品川区の公設の受託園
を開放して、密にならないように保育を見てもらおうなどしている。園長に
も客観的に色んな保育を学んでもらっている。

質問2 北町第二保育園の理念を継承しながら、貴法人のノウハウで更に良くし
ていけると思う点があれば教えてください。

設備面では、園長がある程度自由に物を買うことができる仕組みがある。

例えば、新型コロナウイルス感染症の影響で換気を良くするために、園予算でスタッフルームへ良いエアコンを入れたいと言う園があった。細かい備品やおもちゃを申請せずにその場で自由に用意できることは、継続して行っていきたいと思う。判断することは、より園長として能力を伸ばせる一つのポイントと考えている。施設運営で公立園だからこそやりづらい部分について、民間ならではのスピード感をご提案できると思う。

保育に関して、保育士はジェネラリストで、何でもできないといけないイメージがあったが、そうでなくても良いのではないかと考えている。例えば、絵本がとても好きだから全クラスの絵本を担当する、ダンスがとても好きだからダンスをどのクラスでも行うなど、その人の好きなことを保育の中に入れていきたいと思う。人材育成では、乳児保育をできる人、幼児保育をできる人を育てるのではなく、絵本や運動に特化した人を育てるなど、色々なカリキュラムがある。クラス運営を行いながら、好きなことを自分のキャリアの中心にするというセカンドキャリアは、受託後、新たに加えられるのではないかと考えている。

質問3 職員確保は今までのどおりのやり方か。更なる強化を考えているか。

毎年対策を追加している。保育士が働きやすい環境となるよう、給与面、休暇、有給休暇の使い方などを強化し、今後もより強化していきたいと考えている。過去には月30時間、残業することもあったが、5、6時間に減らしてきている。人材紹介はコストが限られることもあり、ホームページを強化している。専門のスタッフを2名雇用して、情報発信をしっかりとできるように、年々、強化している。学校の先生からの誘導、リファラルの強化、ホームページ経由での応募が増加するなどしている。中途採用を含め、昨年よりも採用は順調なので、今は心配していない。コロナウイルスの影響がどこまで続くか分からないので、今年は費用面も含めて、より強化していこうとグループ全体で考えている。

事業者B

質問1 保育園運営で課題と思っていることは何か。その課題に対して、どのような対応を考えているか。

職員の採用が大変である。特に、東京都、神奈川県は非常に大変である。今のところ、豊島区の園、横浜市の園ともに、職員を確保している。

質問2 北町第二保育園の理念を継承しながら、貴法人のノウハウで更に良くしていけると思う点があれば教えてください。

現在行っている活動をそのまま活かしていくことに加えて、法人が大切にしている「心を育てる」という、子どもたち一人ひとりに寄り添った保育がどういったものかを考える。子どもたち自身が内面から発する興味・関心等を引き出していけるような関わり方を職員と一緒につくっていく。田柄川緑道は、0～2歳が遊ぶ環境としてとても良い場所だと、散歩をしてみても感じた。ただ散歩をするのではなく、子どもたちがどのような発展をしていくか、子どもたち一人ひとりの視点を見ながら職員が連携を取り、研修を重ねることで、より良い保育環境になっていくと思う。

質問3 職員確保で地域に根ざした人材確保の具体的な考えを教えてください。また、地域の方を積極的に雇用するメリットは何か。

園長として現在勤めている園を例として挙げると、町内会と連携を取り、町内会長に園に来てもらい、子どもたちとの交流を行っている。町内会の掲示板に掲示物を貼らせてもらい、婦人部の協力を得るなどしながら、採用を進めていた。実際に、いくつか問合せがあったが、高齢の方は、コロナウイルスの影響で不安だからと、何人か辞退した。地域の方と密に交流して、協力を得ながら進めていきたい。

「まちぐるみ」を法人としてキーワードで挙げている。顔が分かることが一番のメリットだと思う。誰が住んでいるかが分からない中で、子どもたちの豊かな育ちはなかなか難しいと思う。例えば、魚に興味がある子がいたら、魚屋に行き、交流を深める。幼児クラスで七夕の笹を見つけたいと話があり、笹を探し回って見つけた。でも公道だから採ってはいけない、ではどうしようか、区役所の方に聞いてみよう、聞いてから笹を採り、七夕の笹飾りをした。その後、お焚き上げをしないと空に願いが届かない、ではどうしようか、近所の神社を回ったが、だめだった。町内会長から、近くの事業所がお焚き上げをすると聞き、笹を預けた。これは、地域と繋

がっているからこそできることである。終わったからと捨てることは簡単だが、そうはせずに、地域の方の力を借りながら、子どもたちが次はこうしよう、と考えることを大切に育み、子どもたち自身が学びながら活動することができた。地域の方の力なくしてはできないことなので、まちぐるみの保育の観点から、地域に開かれた保育を行っていきたい。

事業者C（株式会社ソラスト）

質問1 保育園運営で課題と思っていることは何か。その課題に対して、どのような対応を考えているか。

待機児童が解消されつつある中で、保護者と地域の方に信頼される園づくりが増々問われる時代になると思う。保育の質の向上を課題と捉えている。

質問2 貴法人の言う優秀な園とは、こういった評価基準で優秀になるのか。

業績の評価基準で言うと、例えば、職員の満足度、定員に対して園児をしっかりと受け入れることができる体制か、職員の定着率が大きなポイントになっている。その他、重大なコンプライアンスの案件がないかも含めて、優秀と決めている。利用者側の満足度もポイントではあるが、しっかりと運営していることが職員の定着や満足度に表れている。利用者アンケートは毎年取り、満足度や自由意見に対する改善を行い、安定した園児の確保に繋がっていると思う。

質問3 北町第二保育園の理念を継承しながら、貴法人のノウハウで更に良くしていけると思う点があれば教えてください。

基本は引き継ぐ。法人で毎年、保護者にアンケートを取り、5段階評価と自由意見をもらっている。評価や意見に対して、改善すること、変えることを伝えている。そのような形で保護者のニーズに応じていくことは、受託後も行っていければと思う。

質問4 タウンミーティングに参加して可能なものから即実現とあるが、例えば、

実現できたものはあるか。

タウンミーティングは、細かなことでも、職員全員が意見を述べて、提案できる場である。給与体系で賃金を上げてほしいなど、大きな話もある。物品がなぜ欲しいかを認識して、しっかりと提案できることで、園長も理解でき、本社に伝えることができる。保育室内でのちょっとした直してもらいたいことの話もある。タウンミーティングは、職員の満足度を高め、より良い保育をするために行っている。

質問5 職員の採用戦略の考えを教えてください。

採用の一番の武器は、定着だと考えている。保育士が〇〇を持って働けるような環境をつくるのが大前提になっている。園を増やす中で必要な人材を確保することも大事なので、自社でウェブサイトを運営して、すぐに応募することができるような対策をとっている。大事なことは、園長を中心として、核となる戦力が定着して、やる気を持てることである。その上で必要な人員を補充し確保することが、質を上げながら事業成長していくポイントになると考えている。

事業者D

質問1 保育園運営で課題と思っていることは何か。その課題に対して、どのような対応を考えているか。

法人の保育園運営は9年目になる。毎年数園ずつ新規開設を行う中で、人材確保はある程度できるようになっているので、保育士の人材育成や質をどのように上げていくか、研修体系や専門職の横軸の取組の中でレベルアップを図ることが一番の課題である。

質問2 北町第二保育園の理念を継承しながら、貴法人のノウハウで更に良くしていけると思う点があれば教えてください。

園児と向き合う時間を増やすために、事務処理のICT化を進め、保護者の利便性も上げている。取り組んできたノウハウは使えると思う。在籍し

ている専門職は他事業も行っているので、様々な専門職が関わりを持つことで、人材育成に繋がると考えている。

質問3 貴法人の職員数と平均年齢を教えてください。

グループ全体で 1,600 名、保育士を含む保育事業部は 700 名である。年齢構成は若い方が多い。新卒採用は毎年続けており、今年は 60 名入職した。この状態が 10 年前から続いている。正確な数字が手元になく、感覚値になるが、構成としては、20 代、30 代が一番多い。40 代、50 代、60 代が大体同じような割合である。

質問4 職員の採用戦略の考えを教えてください。

当法人の保育士は、日本全国から入社している。今年度もその状況は継続している。コロナウイルスの影響で、学校で直接話すことができないときは、ウェブ面接、ウェブ見学会など、Zoom を使って園を見て、園長と話すことを実践している。就活の時期はずれているが、問合せを含めるとアプローチは減っていない。新規園を開設するにあたって、経験のある中途社員の方からの問合せも、昨年度から減っていない。入社した方が定着することも非常に大事なテーマと考えている。個人の LINE アプリとは別で、LINE WORKS を導入して、700 人と繋がっている。問題が起きたときは、すぐに本部が駆けつける体制を組み、効果は出ていると実感している。

2 園長候補者等ヒアリング

運營業務委託に応募した 4 事業者に対するヒアリングを、それぞれ 30 分（園長候補者のアピール 10 分・質疑応答 20 分）行った。

第6回 練馬区立北町第二保育園運営業務委託事業者選定委員会
会議要点記録

令和2年7月30日(木)、8月4日(火)、7日(金)

応募事業者が運営する保育園の視察

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、
こども家庭部長、保育課長、事務局(保育計画調整課長)

応募事業者が運営する保育園を選定委員が現地視察を行った。

事業者Aの運営する保育園の現地視察

令和2年7月30日(木)午前9時～10時30分

事業者Bの運営する保育園の現地視察

令和2年8月4日(火)午前9時～10時30分

事業者Cの運営する保育園の現地視察

令和2年8月7日(金)午前9時～10時30分

事業者Dの運営する保育園の現地視察

令和2年8月7日(金)午前11時45分～午後1時

第7回 練馬区立北町第二保育園運營業務委託事業者選定委員会
会議要点記録

令和2年8月25日(火) 午後7時～8時

練馬区役所本庁舎 12F 教育委員会室

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、
こども家庭部長、保育課長、事務局(保育計画調整課長)

事業者の選定について

審査基準表の「A 提出書類等審査」、「B 現地調査・現地視察審査」、「C 園長候補者等ヒアリング審査」の項目ごとに評価し、事業者の選定を行った。

《主な意見》

事業者A

- ・法人が新しい取り組みを積極的に行っている。
- ・東京都福祉サービス第三者評価が高く、また、保育士や子どもたちがいきいきとしていて、楽しそうな様子であった。
- ・園長候補者は、素直な人物で子どもたちからも慕われていたが、管理職経験が浅く、公立園を運営するのは難しいと感じられた。

事業者B

- ・法人の人材育成の考えが、抽象論にとどまっている。
- ・法人直営園と提携園の保育運営が大きく異なるなど、園によって、運営にばらつきがあった。
- ・園長候補者は、明るい人柄で、保育について考えている様子が伺えた。

事業者C：株式会社ソラスト

- ・区立保育園の継承を前提に区の保育を学びたい姿勢があり、受託に対する強い熱意が感じられる。
- ・法人全体で保育環境の向上に取り組む意欲が見られる。
- ・園長候補者は、経験が十分あり、自信を持って保育園運営に取り組む姿勢が感じられる。

事業者D

- ・法人は、見守る保育を掲げている。
- ・保育の場面で、保育士が子どもたちを待たせすぎている様子が見られる。
- ・今後の更なる保育内容の見直しと職員の育成が望まれる。

評価の結果、二次審査を行った4事業者のうち、2事業者は区の選定基準(1,000点中700点)を上回った。総合点が高い事業者C(株式会社ソラスト)を北町第二保育園運營業務委託候補事業者として選定した。